

刊 夕 日 九

●三省調査機關

朝鮮銀行にては東滿洲裏面の鎖鑰
 間島龍井村に出張所を設置す
 像で總督府に對し許可の申請由

切其の他の副産物は從來製材同様
口取引者に對しては最大割引を爲
世給し來りし結果直接營林廠に注

比すれば二萬六千圓の増加となり、日一哩収入は二十一圓六十六錢に當り、前年より一圓八錢の増収なり。

附したるを以て各木杯一個を下
れたるに、**商船支店長**赴任。今回
支店長に榮轉せし大阪商船會

賜さ 於て賣買取引されたる畜牛は
 女平 歩數六六一七頭にして賣買取
 杜仁 二頭賣買價格八二〇六〇圓積

出塲數 六八 千八百九十五
 は上格一萬二千四百九十七
 吹之が平均價格八圓十四

下格二
二百九
錢なり
前田忠兵衛藩士
八日役入京
池内勇氏(全南長城藩身分隊長)
朝右外代鐵匠(新藩士) 大連旅順
政九日朝東京

上
出張中の

しの銀次郎も、流石に生ねばきの江戸氣性は、何處かに罷て居ねばならぬのである。殊に、かねて、組代の壽命不運な境遇に就しては、お久さ口喧嘩を爲すまでも、多少の同情心をもつて居た矢先なので、銀次郎は矢庭に突立ち上るご導しく、今度は、公然大きな咳拂ひを爲しながら故意に大股に階子段を踏み鳴らして、柳の表座敷へ「エッゴさばかり顔を突き出したから大變に女將は、言ひ合はしたやうに仰天殿して、物も得言はすに二三歩へ引退つた。恰度此の時、組代はぐツツリと寝込んだ疲労の夢から呼び覺され、睡い駆けつやうな臉を振りながら、帯を引締めやうと爲る所であつたが、一目、銀さんの顔を見るご同時に、

知して呉んなせよ。」
斯うなつては、紳士の假面を、生嚙りの漢語を使つて居る松平も露骨の銀さんの方が數等威烈しい。

「あら拙業、それだつてお前さんのお娘はそりや、極楽から預けた譯やあるまいし、現在此處おの松崎さんが、仔細かつて他へお連れになつたんで、すもの。」

「何だ、仔細あつて松崎さんが、いへになつたんだつて、仔細と云ふ大概此の娘を口説き落して、手子花にでも爲やうと思つて弊障家盗み出して来たのに違ねわんか、左もなくて、何處の馬の骨がこぼれて、若い娘を連れ込んで來があるかね、おい、お細坊、俺、

うして現はれたからには、もうござ
な事があつたつて、その野郎なん
に指でも差されるこつちやねわか
安心して身仕度をやらね、何だ
眼が眩むやうな氣が爲て起たれね
と云ふのか、好し、それぢや
が傳のある處まで背負つてツてや
う。

「八丁堀の小父さん、情願、後生
すから助けて下さい……」
細代は、泣きながら言ふのにさ
もう息が詰りさうな苦痛さを感じ
た。

「助けてやらねばで、仕うするも
かね、乾度わりいやうには爲ねば
ら、心配しなさんなてねこ。」
銀さんは、理由に關はず、背を
して細代を負つて、進らうと云ふの
である。

「いね、小父さん、背負つてまで、

ほか 其他がハタと来なくなつたので一
 も二にも日本製品が輸入さるゝこ
 となり此處日本品は大抵て何處の
 大商店にも日本品を見かける。成
 國産炭、麵粉、販路擴張には頗る
 も無き好機會であるが夫れをよに
 にと出鱈目のものをドン／＼送ら
 するため折角の販路を我から閉塞
 つて来た者出度い
 ▲新機運を打破し 一
 日本品は歌目だ云ふ種を誇
 つあるのは嬉しい次第ではあるが
 か現に柔道日本ドライブーズ會社
 日本から送つた「スタンディング」
 ソルダーニング、ドール」とい
 袋の外形が三千ダース即ち三萬
 の多數を送りつけた之れは人形
 足が前後左右に廻すこと出来

[illegible][illegible][illegible]